

令和六年度

第五十三回 さくらんぼの都市さがえ全国俳句大会

第四十四回 さくらんぼの都市さがえ

全国小・中学生俳句大会

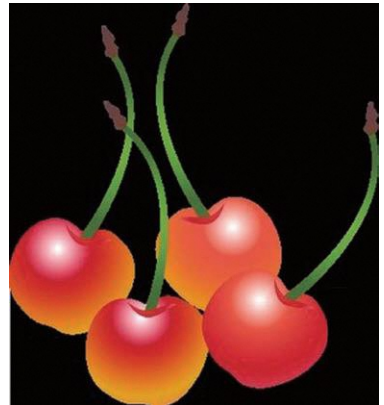
入選句集

主催 さくらんぼの都市さがえ全国俳句大会実行委員会

共催 寒河江市立図書館

後援 寒河江市・寒河江市教育委員会

寒河江四季のまつり実行委員会



第五十三回 さくらんぼの都まち市さがえ全国俳句大会

第四十四回 さくらんぼの都まち市さがえ全国小・中学生俳句大会

入選句集

選者

佐	武	武	加	松	井
々	田	田	藤	田	上
木	龍	詩	菜	弘	弘
雄	子	美	仁	三	美
先生	先生	先生	先生	先生	先生

第五十三回大会を迎えるにあたり

実行委員長 松 田 弘 三

今年の大会は五十回を境に新たなスタートとしてコロナ対策を意識しながら歩み始めたわけですが、昨今の気象の変化により、この大会の開催時期が微妙な変化を余儀なくされてきました。

つまり、さくらんぼの収穫時期に合わせた大会日の設定、投句募集の締切り期間、それによる準備作業が早まってきたことです。また、今後の問題としてこの会を運営してきた市内各結社の内、数社が高齢化や会員の減少により解散などに追い込まれたということです。

この伝統ある大会を維持、発展するためには一段の努力が必要になり、また全国からの投句者に対する呼びかけがあらためて必要になる訳です。

今年のもう一つの特徴としては、中央選者にお願ひしましたのは昨年と同じ井上弘美先生であります。二年続けてお願ひしたということは参加者の方々の声が大きく、是非もう一度ということになったわけです。ご多忙にもかかわらず、快くお引き受けしていただきました。感謝申し上げます。

また、佐藤市長さんからはご多忙のところ昨年一昨年と、市長賞の選を引き受けていただきました。有難うございました。

寒河江市長賞

特選

双子にも父似と母似さくらんぼ

東京都武蔵野市 木村 幸枝

秀逸

手のひらはやはらかき皿さくらんぼ

神奈川県横浜市 飯島 まゆみ

さくらんぼ含み乙女のやうな母

群馬県藤岡市 原 美知子

寒河江四季のまつり実行委員会長賞

特選

癖強き父の宛書さくらんぼ

山形県山形市 鈴木 あい

秀逸

赤い実をおうとうと呼ぶ祖母恋し

山形県寒河江市 清野 都

さくらんぼ家族に小さき靴ふえて

山形県寒河江市 大熊 幸夫

井上弘美賞

特選

少年の鎖骨まぶしきさくらんぼ

東京都小平市 大塚康子

秀逸

また弟のちよきが勝つさくらんぼ

東京都八王子市 大山妙子

御神輿を担ぐ子ども鼻化粧

山形県天童市 岡田久一

あを空の向かふに星座さくらんぼ

神奈川県川崎市 小野美智子

選評

井上弘美

特選 少年の鎖骨まぶしきさくらんぼ

大塚康子

「さくらんぼ」そのものを詠んだ句ではなく、「少年」の「鎖骨」を「まぶしい」ものと捉えることで、薄着になる季節感と少年の健康な生命力を生き生きと捉えている。それは、「さくらんぼ」の明るく瑞々しい輝きに通じるもので、「少年」を讃えることで、「さくらんぼ」を讃えることになった。この大会の特選句にふさわしい。

秀逸 また弟のちよきが勝つさくらんぼ

大山妙子

楽しい作品で、「ちよき」に「さくらんぼ」のV字の茎がイメー
ジされる。それはVサインのようでもあり愉快。

秀逸 御神輿を担ぐ子ども鼻化粧

岡田久一

「御神輿」を担ぐ子どもたちの、「鼻化粧」を捉えたことで印象鮮明。伝統ある祭の賑わいや子どもたちの活気が伝わる。

秀逸 あを空の向かふに星座さくらんぼ

小野美智子

夜の闇の中でしか見えない「星座」を「あを空」に思い描いて発想が柔軟。「さくらんぼ」が星々のように思える。

近詠

身に寄せて弾くおぼろ夜の百済琴

松田弘三選

特選

子供食堂仕切る子二人さくらんぼ

山形県酒田市 藤丸美生

秀逸

タンデムのペダルを漕いでさくらんぼ

山形県上市 小田隆治

羅漢仏銘々の筈にさくらんぼ

熊本県熊本市 末次菖夫

蓄へし光の重ささくらんぼ

富山県高岡市 牧野実奈

選評

松田弘三

特選 子供食堂仕切る子二人さくらんぼ

藤丸美生

子ども食堂は東京都大田区で20年以上前、地域の住民などが主体となり貧困や個食対策のために無料や低料金で子どもたちのために誕生したという。それが全国に広がり今では9千ヶ所にもおよぶという。その中の一つに焦点を合わせ、ドラマのワンシーンのように描いている。現代の世相を色濃く表している。

秀逸 タンデムのペダルを漕いでさくらんぼ

小田隆治

タンデムは二人乗り用自転車のこと。よく観光地での貸自転車などで見かけられるようだ。「ペダルを踏む」ではなく「漕ぐ」としたところが二人乗りの自転車らしく、息を合わせながらの動作が見えてくる。若々しさが感じられ、明るい季節が生ききている。

秀逸 羅漢仏銘々の筈にさくらんぼ

末次菖夫

羅漢仏とさくらんぼの取合せの妙がこの句の眼目。この羅漢仏は五百羅漢などではなく十六羅漢仏のことであろう。その羅漢仏に「銘々の筈」とあり、季節のお供えに羅漢様も喜んでくれるのだろう。

秀逸 蓄へし光の重ささくらんぼ

牧野実奈

陽の光の量を重さと把握し表現したところがポイントとなっている。しかも、日々捻りつつあるそれを蓄えながら膨らみ、色づいてゆく時間的経過も暗示している。達意さを感じさせる一句である。

近詠 靄霽れて一糸まとわぬ水芭蕉

佳作

牡蠣小屋に復興支援の募金箱

長野県松本市 中村 百仙

警策の音にほぐるる白牡丹

埼玉県さいたま市 木村 隆夫

掃除機の吸い込まれゆく夏座敷

京都府京都市 岸野 由夏里

退院の妻を待つてるさくらんぼ

神奈川県鎌倉市 嶋村 比呂樹

ほっこりと孫の手包みさくらんぼ

東京都世田谷区 鈴木 義久

搾乳の乳のとばしる柿若葉

東京都八王子市 大山 妙子

夏座敷祖霊静かに揃ひたる

東京都武蔵野市 木村 幸枝

まほらまの空ふかぶかとさくらんぼ

東京都江東区 久保 栄子

漆黒の闇の抜け穴恋の猫

北海道札幌市 藤林 正則

少年の鎖骨まぶしきさくらんぼ

東京都小平市 大塚 康子

入選

ひかりにも小さき重力さくらんぼ

愛知県名古屋市 尾崎 登代

輪唱の橋渡りくるさくらんぼ

東京都中野区 中田 千恵子

水匂ふ方へ方へと螻の道

熊本県合志市 今村 雅美

さくらんぼ家族に小さき靴ふえて

山形県寒河江市 大熊 幸夫

玉砂利を踏む音も夏神の庭

新潟県上越市 山岸 幸子

双子にも父似と母似さくらんぼ

東京都武蔵野市 木村 幸枝

さくらんぼ届く施設に拍手涌く

福島県棚倉町 藤田 容子

灯台のポストまつ白燕来る

京都府京田辺市 古野 由美子

もう誰も還らぬ家やさくらんぼ

北海道札幌市 鎌田 誠

春泥や牧童の押す牛の尻

神奈川県藤沢市 青木 敏行

加藤 仁 選

特 選

さくらんぼ含み乙女のやうな母

群馬県藤岡市

原

美知子

秀 逸

くちびるで抱き締められるさくらんぼ

神奈川県小田原市

井 上

靖

癖強き父の宛書さくらんぼ

山形県山形市

鈴 木 あ い

青空をノックしに行く告天子

愛知県東海市

斉 藤 浩 美

選 評

加 藤

仁

特選 さくらんぼ含み乙女のやうな母

原

美知子

さくらんぼを食べながら母と茶の間などで和やかに昔の話でもしているのでしょう。さくらんぼを食べている一瞬を捉えたカメラアングルのようです。

「ご自分の母を「含（ふふ）み乙女のやうな」と表現されていますが、自慢の母なのでしょう。

秀逸 くちびるで抱き締められるさくらんぼ

井 上

靖

「くちびるで抱き締められる」の表現は、やや説明的ですが、難しい場面を一句一章にまとめたと感じました。

秀逸 癖強き父の宛書さくらんぼ

鈴 木

あい

家を離れて生活しているのでしょうか。さくらんぼが宅配で来た宛名書きが一目で父のものだと分かった。父であれ母であれ、特産のものを食べたいのは同じだ。読者によっては違った感想をされるかもしれません。

秀逸 青空をノックしに行く告天子

斉 藤

浩 美

告天子は雲雀のこと。天高く豆粒のようになっても声だけは届く揚雲雀。寒河江市内の田圃では見られなくなりました。

「青空をノックしに行く」とは大胆な表現で夢を与えてくれます。「少年よ大志を抱け」（クラーク博士）「玫瑰（はまなす）や今も沖には未来あり」（中村草田男）を想起させてくれます。

近詠 夕蛙水面の月山小躍りす

佳作

箱あけて百の瞬きさくらんぼ

東京都町田市 若山 真紗子

さくらんぼ頑固親父の棺に入れ

山形県河北町 大熊 周一

双子にも父似と母似さくらんぼ

東京都武蔵野市 木村 幸枝

手のひらはやはらかき皿さくらんぼ

神奈川県横浜 飯島 まゆみ

幾度の戦火乗り越え古今雛

東京都練馬区 小林 和子

遠き日へ行ける春野の縄電車

群馬県藤岡市 木下 薫

赤い実をおうとうと呼ぶ祖母恋し

山形県寒河江市 清野 都

さくらんぼふふむや母の幼顔

青森県鶴田町 竹浪 誠也

さくらんぼ移住の息子の暮らす都市

埼玉県草加市 伊藤 一男

戯言も話せる見舞さくらんぼ

山口県田布施町 曾我 欣行

入選

二の段の九九そらんじてさくらんぼ

新潟県新潟市 平田 由香里

鈴のごと振ってみたしやさくらんぼ

京都府精華町 奥 和民

6Bの頭揃へて一年生

埼玉県春日部市 桐野 鈴子

摘み草やハンカチはみ出る姉妹

山形県寒河江市 阿部 栄子

一人つ子を羨やむ三女さくらんぼ

東京都世田谷区 伊丹 妙子

羅漢仏銘々の筒にさくらんぼ

熊本県熊本市 末次 菖夫

文集の百の子の夢さくらんぼ

京都府京都市 吉田 功

晴天や天地返して田水張る

山形県山形市 結城 和生

橋杭で思案に暮れる花筏

三重県津市 尾家 徳次朗

万緑や心の鎧脱ぎませう

山形県白鷹町 小林 香代子

武田菜美選

特選

我もまた父の遺品や春の雲

東京都足立区 山崎勝久

秀逸

蓄へし光の重ささくらんぼ

富山県高岡市 牧野実奈

ぶかぶかの学生服が春を往く

福島県郡山市 浅野理恵

遠き日へ行ける春野の縄電車

群馬県藤岡市 木下薫

選評

武田菜美

特選 我もまた父の遺品や春の雲

山崎勝久

辞書を開けば「遺品」は個人が残した品物、かたみと出ている。まるでご自身もお父様の遺された数々の品物のなかの一つに過ぎないと言いたげな表現に驚きながら、下五の春の雲まで読み進んで、故人の特に大切にしていた品には「遺愛の時計」のように「愛」の一字が加わる事に気が付きました。お父様と過ごしたあたたかき思い出とその穏やかなお人柄が手に取るように伝わってきます。

秀逸 蓄へし光の重ささくらんぼ

牧野実奈

赤く輝く桜桃の一粒一粒には、太陽の光が詰まっているという発見が新鮮です。光にも重さがあると言いつつ大胆さに心ひかれました。

秀逸 ぶかぶかの学生服が春を往く

浅野理恵

ぶかぶかの学生服の即物的な表現が光っています。成長を見越して眺えた親心を知るや知らずや、新しい生活に一步踏み出してゆく姿を、ほほえましくとらえています。

秀逸 遠き日へ行ける春野の縄電車

木下薫

縄電車に乗れば何処までも行くことができると思えたのは子供の頃。距離を遠き日迄と時間におき換えることで、月並みな旧懐の情に大人になってしまった悲しみも加わりました。春の光の中を走る縄電車なら、どんな夢も叶うと信じる事のできた日まで一走りです。

近詠 駒返る草やヒト科の亡ぶとも

佳作

水打つて人待つ庭となりにけり

東京都町田市 若山 真紗子

搾乳の乳のとばしる柿若葉

東京都八王子市 大山 妙子

初恋の微熱の残るさくらんぼ

群馬県藤岡市 木下 薫

青空をノックしに行く告天子

愛知県東海市 斉藤 浩美

朝涼や覚めゆく夢は沙の如く

東京都目黒区 吉田 八知代

学校の友達できた桜の実

東京都文京区 小西 弘子

たつぷりと待たせておいて添水鳴る

栃木県宇都宮市 斎藤 光

新社員まだ一足目のパンプス

山形県村山市 布川 百合香

警策の音にほぐるる白牡丹

埼玉県さいたま市 木村 隆夫

春泥や牧童の押す牛の尻

神奈川県藤沢市 青木 敏行

入選

開け放つ宿坊の空桐の花

大阪府堺市 森岡 玲子

さくらんぼ家族に小さき靴ふえて

山形県寒河江市 大熊 幸夫

晩学のほめられ上手さくらんぼ

熊本県熊本市 角田 宏子

夏座敷祖霊静かに揃ひたる

東京都武蔵野市 木村 幸枝

さくらんぼ少年空を向いて食ぶ

山形県山形市 鈴木 実

手のひらはやはらかき皿さくらんぼ

神奈川県横浜市 飯島 まゆみ

青葉風修験の山を席巻す

山形県西川町 高橋 真喜子

青空の光一滴さくらんぼ

島根県出雲市 下手 泰子

囀や半世紀後のクラス会

東京都杉並区 原田 伸介

娘らの歩幅伸びゆく立夏かな

東京都世田谷区 野上 卓

小学生の部

奨励賞 寒河江市立寒河江中部小学校

東京都文京区立青柳小学校

武田詩子選

特選

らんどせるまるでぼくはかめみたい

寒河江中部小一年 さとう げんと

タンポポの目をして赤ちゃん目をさます

寒河江中部小六年 佐藤 遙 音

雪だるまとけて次の日出かけてる

南部小 五年 石山 未桜

選評 武田詩子

らんどせるまるでぼくはかめみたい

さとう げんと

なんと一年生らしい可愛らしい句ですね。新しいランドセルには教科書のほかに友達や教室での出来事、先生との会話など楽しいことが、ぎっしり詰まっていますね。

中七に一字足りたりないけど気になりません。げんと君頑張りましたね。

タンポポの目をして赤ちゃん目をさます

佐藤 遙 音

びっくりしました。大人には考えられない俳句です。

太陽をいっぱい浴びたタンポポは、まん丸で空に向かって花びらを広げて咲いています。赤ちゃんもぱちくりと目を開けたのですね。遙斗さんの感性がとても豊かです。

雪だるまとけて次の日出かけてる

石山 未桜

雪だるまの句はいっぱいあったけど、溶けて無くなったのではなく「出かけてる」の擬人化に魅力があります。さて、どこに出かけたのでしょうか。

想像するととても楽しい子どもらしい句ですね。未桜さんまた作ってくださいね。

近詠 春の田の眠りを起こすトラクター

秀逸

ヘルメットかぶってとびだすぼくのなつ

寒河江小 二年 羽賀 ゆうま

ひやけがおおうえんせにしてホームラン

寒河江中部小三年 正野 朝耀

グランドのさくらとぶとぶぼくもとぶ

南部小 四年 阿部 珀龍

まどぎわで春のけしきをのぞくねこ

西根小 四年 竹田 芽依

佳作

こいのぼり口を大きく村をのむ

三泉小 四年 後藤 大翔

赤ちゃんをだっこしてねるはるのゆめ

寒河江中部小三年 あだち はな

夏の空みんなを泣かせた新人戦

南部小 五年 大泉 奏介

目をほそめ春の光を浴びる猫

南部小 六年 武田 萌愛

こいのぼり泳げる空がへってきた

群馬県城東小四年 菅井 淳人

入選

ねこといぬさくらのまわりをかけまわる

三泉小 二年 かとう ゆずか

通学はん一年生の手を引くよ

三泉小 三年 土田 航大

グランドのさくらの名前「さくたろう」

三泉小 三年 土田 翔真

くらいつくブルーハワイのかき氷

三泉小 五年 高橋 空良

西空に入道雲がおこってる

三泉小 五年 土田 芽依

庭の桜ひらひらわたしをうめつくす

三泉小 五年 渡辺 香奈

あまがえる今日も上手にかくれんぼ

千葉県菅田東小二年 瓦井 千尋

ぱぱのじにまるまるふたつきくらんぼ

寒河江小一年 たけだ ゆうほ

かえったらぼくんちしゅうこうさくらんぼ

寒河江小二年 えのもと れん

1ねんせいにながてなものもたべれたよ

寒河江中部小一年 しんぐう ゆい

かくれんぼなの花ゆれるみーつけた!!

寒河江中部小二年 うのかりん

さんぽみちつないだ手のかげさくらんぼ

寒河江中部小三年 片倉宝珠

たけのこはすすくすく育つほくみたい

寒河江中部小四年 古藤光

風りんの音が季節を変えてゆく

寒河江中部小五年 荒木貴晴

母さんのかたに花びらちょうになる

寒河江中部小五年 佐藤大惺

ああ春だ町中みんな動きだす

寒河江中部小五年 後藤駿介

夏休みひみつの場所へぼうけんだ

寒河江中部小六年 須藤望結

おとまりの別れの朝の桜餅

寒河江中部小六年 小松祐儀

ぶどうがり口いっぱいに空の味

南部小三年 阿部桜介

ひらひらとさくらのシャワーがぼくの手に

南部小三年 さかいひなた

相のりのバレーのしあい氷水

南部小四年 有川奏史郎

なの花のたねがばちんととびだして

南部小五年 那須響

桃畑摘花し広がる青い空

南部小五年 海野ひかり

春風やわたげがふわりぼうけん

南部小五年 菅野凜

夏の山虫の集会ブンブンブン

南部小五年 落合琴音

さくらんぼ努力の分だけ光ってる

南部小五年 佐藤文香

みこしかつぐ父と先生元気よく

南部小六年 近松隼

秋の風少しさびしいにおいする

南部小六年 宇津井咲希

赤とんぼ夕暮れ時にとけてゆく

南部小六年 大沼瑞希

チューリップげんきにとうこうおみおくり

西根小二年 あいためい

かわいいなほくもむかしは一年生

西根小 二年 くにい はるせ

ミツバチと手伝うじいじのさくらんぼ

柴橋小 五年 安食 葉里

じてん車にはじめてのれた春の道

醍醐小 三年 わたなべ ひなた

里の春色とにのきのきようそうだ

醍醐小 四年 草莉 和翔

グラントのはじまで一面春もよう

醍醐小 五年 平松 樹

おうとうの花がぶたいの小鳥たち

醍醐小 六年 草莉 優里花

てれちゃうとわたしのほっぺさくらんぼ

白岩小 一年 真木 奏穂

太陽が光の矢と化す夏近し

東京都青柳小六年 川井 智尋

子どもの日そろそろ子ども卒業か

東京都青柳小六年 早野 茉夏

さつき晴れ声たかだかに応援歌

東京都青柳小六年 百瀬 理央

水分をしっかりとろうせみの声

高松小 四年 伊藤 明日美

夏休みたくさんしたいことばかり

高松小 四年 大沼 愛彩

たけのこものびのび育ち成長期

高松小 四年 大沼 めい

オニヤンマ連れて走るよ川のそば

高松小 五年 高橋 遼斗

夏休み朝の光が早すぎる

高松小 五年 奈良崎 旭柊

雪だるまなみだ流してさようなら

高松小 五年 廣林 莉玖斗

がんばったしるしのあかし水着あと

高松小 六年 伊藤 咲希

牛乳を空にこぼした天の川

高松小 六年 佐藤 琴音

逆さまに虹をうつした水たまり

高松小 六年 庄司 睦

夏休み水でつぼうで姉を打つ

高松小 六年 楨 葵彩

中学生の部

奨励賞 寒河江市立陵東中学校

岐阜県川辺町立川辺中学校

佐々木龍雄選

特選

残雪に穴掘りはしやく東京っ子

陵東中 三年 松田 和々葉

桜咲く駒武者は舞う盤上で

陵南中 三年 荒井 大翔

さくらんぼパフェの仕上げにトッピング

岐阜県川辺中二年 磯部 叶多

選評

佐々木龍雄

残雪に穴掘りはしやく東京っ子

松田 和々葉

残雪は春になっても消えずに残っている雪、都会では雪は積もらないので全く見られない光景で、春休みの頃田舎へ来た子は残雪に愛着を感じ雪に触れ合い思う存分に遊んだ情景は穴掘りはしやくの中七でこの子の動作や声まで聞こえてきそうなところをうまく表現しました。迎えた家族にとっても和やかに楽しい一時を過ごされた雰囲気漂う良い句となっている。

桜咲く駒武者は舞う盤上で

荒井 大翔

将棋の駒の産地で知られる天童市で人間将棋が行われる、それは一マスの大きさ縦1段50横1段20の中に甲冑を身にまとった人間が将棋の駒になって棋士の対局どおりマスを移動する桜祭りのときのイベントで、この情景をうまくまとめ上げたのは観察力の深さのあらわれでしょう。敵味方合わせて四十名の駒武者が盤上で回るところを舞うと表現し、桜祭りにふさわしい句となっている。

さくらんぼパフェの仕上げにトッピング

磯部 叶多

おうちでパフェを作っているか店での鑑賞なのかさだかではないがいずれにしてもチョコレートやフルーツを重ねて作った最後のトッピングに鮮やかなさくらんぼが主役となる彩が正に絵を描いたような仕上げとなり良い作品となっている。さくらんぼの俳句は難しうか詠めないがここのさくらんぼの季語は効果的な使い方であうまく生きている。

近詠 万緑や富士十全の立ち姿

秀逸

ネモフィラや空の青さと揺れる影

陵東中三年 佐藤結花

夏空の光輝く本塁打

陵南中二年 佐藤慎之助

せせらぎの音に混じりて螢とぶ

陵西中三年 菊地琴巴

一つだけプリンの上のさくらんぼ

岐阜県川辺中二年 吉井脩吉

佳作

うぐいすが釣れない僕をなぐさめる

陵東中三年 秋場幸也

晴天に竹刀を振り上げ桜舞う

陵東中三年 土屋舞人

幼子の影をいろどるしゃぼん玉

陵南中二年 荒木董

鳥の声陽春の日の贈り物

陵西中二年 國井和紗

ふわふわわりキンモクセイの星が降る

岐阜県川辺中三年 山崎凜

入選

春風や私の背中たたいてく

陵東中一年 高橋芽咲

初夏の朝田んぼの周り水光る

陵東中一年 宮林陽空

茅葺きの空より高く鯉幟

陵東中一年 石橋茉莉亜

タラノメやトゲがチクチク邪魔してる

陵東中一年 松田陽太

息ふけばたんぽぽわたげ空高く

陵東中一年 工藤蘭

幹をなでまた来年と花吹雪

陵東中一年 安藤磨美

春光やそろそろ覚めよと亀を呼ぶ

陵東中二年 渡邊陽生

さようならまた六年後鮭の稚魚

陵東中二年 渡辺權莉

風がふきわさわさわゆる藤の花

陵東中二年 榎杏奈

金鋼の杖音 巨り水温む

陵東中二年 土田統麻

揚げいもの湯気まだ白き春の雪

陵東中 二年 佐藤 克哉

竹の子と背くらべっこ私達

陵東中 二年 尾形 帆香

いとおいしい子連れのかげ雨やどり

陵東中 三年 安孫子 一落

自転車のペダル踏み切り風薫る

陵東中 三年 伊藤 駿太

土を蹴り揺れる視界に見える夏

陵東中 三年 東海林 明那

空にあるテニスのボールおぼろ月

陵東中 三年 小野 純青

ぜんまいのうずにつつまれ苦みかな

陵東中 三年 遠藤 孝輔

喉からしふるえる若葉応援歌

陵東中 三年 内藤 脩介

雪解けて変わり始める山の色

陵東中 三年 仁平 脩斗

春雨や色変わりだす木のベンチ

陵東中 三年 滝田 和輝

制服の丈が合わない一年生

陵南中 一年 佐藤 凜々子

しゃぼん玉風の間消えていく

陵南中 一年 小野 慎之助

春の風いろとりどりに変えていく

陵南中 一年 鈴木 心寧

涙ふき去る学び舎になごり雪

陵南中 一年 東條 有紗

白い花おおいそがしのハチと父

陵南中 一年 熊坂 來樹

美しい花暮夜ひっそりと花明かり

陵南中 二年 岩田 愛來

文化祭マイバレードに声重ね

陵南中 二年 中村 滉士

暑くなり月山眺めクールダウン

陵南中 二年 松本 乃彩

風鈴の風を友にし鳴る音色

陵南中 二年 渡邊 涼奈

ザリガニをさばいてたべたらエビだった

陵南中 二年 江口 遼世

白鳥が空の彼方へ飛んで行く

陵南中 三年 武田 あすか

紅葉狩山が着飾る多色の葉

陵南中 三年 武田 匠五

take your mark 静かなプールに水飛沫

陵南中 三年 遠藤 悠叶

雪がふり家族で鍋を囲む日々

陵南中 三年 佐藤 海翔

町中を活気でつつむ夏祭り

陵南中 三年 佐藤 瑠

しゃぼん玉そよ風に乗り旅に出る

陵南中 三年 沖津 飛綺

羽子板でまるでパンダねでも楽し

陵南中 三年 菅野 祐輝

ホウキグサ真っ赤な色の自然の火

陵西中 一年 新宮 友唯真

山粧う目にしみわたる散歩中

陵西中 一年 佐藤 一聖

たけのこのようには伸びぬ我が身体

陵西中 二年 佐藤 海斗

光る朝青田広がる体育館

陵西中 二年 布川 陽菜

次々と蠅が来るたび腹が立つ

陵西中 三年 木村 瑛治

新緑の風に揺られる小鳥の巢

陵西中 三年 菊池 耕平

家の庭笑い飛び交うバーベキュー

福岡県春日中二年 城下 美優

さくらんぼ私の名前はさくらだよ

福岡県春日中三年 楨戸 さくら

ボートこぐかけごえひびく米田富士

岐阜県川辺中二年 梅村 姫由陽

さくらんぼ風とかなでる音符かな

岐阜県川辺中二年 土屋 龍弥

葉に注ぐ吹き抜く風は春一番

岐阜県川辺中三年 山口 陽生

割引のシールばかりの冷蔵庫

愛知県名古屋中一年 森本 柚輝

役人の手持ち無沙汰に絵踏かな

愛知県名古屋中三年 山本 昊太郎

高校生の部

武田菜美選

特選

桜桃に空の深きを被せたる

山形県山形東高校三年 鈴木沙都

秀逸

野薊や喧嘩はいつも負ける側

山形県山形南高校三年 高山聖音

行く春や舟より薄き紙テープ

愛知県名古屋高校三年 三浦英雄

選評

武田菜美

特選 桜桃に空の深きを被せたる

鈴木沙都

桜桃の実に空を被せるの措辞には「寝る子は育つ」の慣用語が含まれているようです。

幼子にふかふかの布団を掛けてやるように空をふんわりと被せて、よく眠って、大きく育てと願う農家の人達の親心が感じられます。空の深さが手塩に掛けて育てる愛情の深さと重なります。さくらんぼと空の新しい関係が生まれました。

秀逸 野薊や喧嘩はいつも負ける側

高山聖音

薊は別名「刺草」とも呼ばれるように茎や葉に鋭い棘があります。ならば喧嘩にも強そうですが、いつも負け組という逆説に、心の屈折がうかがわれます。負けないためにはいよいよ鋭い棘をもって心を鎧っている野薊の花です。

秀逸 行く春や舟より薄き紙テープ

三浦英雄

船に乗って旅立つ人と見送る人の手にしっかりと握られた紙テープは別れを惜しむ心そのものですが、希望に向う喜びの色でもあります。しかしここでは舟の表記が小島を出てゆく人とのどこか淋しげな景を思わせます。加えて春の日差しにも透けるような薄い紙テープが、季節の移ろいのはかなさを、さり気なく表しています。

近詠 息吐きて吸うて五体に梅満開

佳作

汽車を待つつま先まるっと春一色

徳島県鳴門高校二年

東條幸奈

釉薬の垂るるかたちに乾き春

愛知県名古屋高校二年

東野礼豊

空を描く人を見てゐる春の海

愛知県名古屋高校三年

加納輝一

入選

静寂や目を瞑りたる冬の蝶

埼玉県大宮国際中等教育学校三年

前田栄人

雨蛙徹夜に沁みる子守唄

山形県谷地高校三年

渡部心美

白球に一点集中汗流れ

山形県谷地高校二年

奥山陽菜

的めがけ一筋の矢と勝虫と

山形県谷地高校一年

小野椰奈

余滴有り夜空に映える朧月

山形県左沢高校一年

佐藤新

緊張が桜とともに散っていく

山形県左沢高校一年

鈴木菜穂

桜舞う期待を胸に歩み出す

山形県左沢高校一年

鈴木麻穂

鈍行のとまれば春の光かな

山形県山形東高校三年

三浦温人

水底の黒い宝玉石の群れ

山形県山形南高校二年

鈴木健太

のどかさや外郎売の真似をして

山形県山形南高校二年

武田千尋

冬萌えの俯く顔に声かける

山形県山形南高校二年

柏倉丈

つらいときみんなで歌うさくらんぼ

埼玉県特別支援学校坂戸ろう学園二年

佐々木啓太

桜咲く今日は私の誕生日

徳島県鳴門高校一年

高橋利緒

バス停の椅子のかたさや薊咲く

愛知県名古屋高校二年

田籠瑛

春光や社交ダンスの足捌き

愛知県名古屋高校三年

鈴木哲平

選者略歴

井上弘美 先生

昭和28 京都府生まれ
 昭和59 関戸靖子に師事
 昭和63 「泉」入会 綾部仁喜に師事
 平成16 早稲田大学院修士課程において近世俳文学を研究
 平成24 「汀」創刊主宰
 現在

「汀」主宰 「泉」同人（公）俳人
 協会評議員 朝日新聞京都俳壇選者
 武蔵野大学客員教授・早稲田大学
 エクステンションセンター講師「N
 HK俳句」選者（2019・2020年）など
 句集に『あをぞら』（第26回俳人協
 会新人賞）『汀』夜須礼（やすら
 い）（第10回星野立子賞・第14回小
 野市詩歌文学賞）他

著書に『俳句上達9つのコツ』『顔
 見世 俳句日記2013』『季語にな
 った京都千年の歳時』『読む力』（第
 35回俳人協会評論賞）『俳句劇的添
 削術』井上弘美編『発信！武蔵野
 大学俳句アンソロジー』他多数

松田弘三 先生

寒河江市生まれ
 俳誌「森の座」無鑑査同人
 俳誌「青瓢」主幹・選者
 公益社団法人俳人協会々々員
 山形県俳人協会々々員

加藤 仁 先生

俳誌「森の座」無鑑査同人
 公益社団法人俳人協会々々員
 俳誌「青瓢」運営委員・編集長
 山形県俳人協会々々員

武田菜美 先生

俳誌「銀化」同人
 「山寺俳句塾」「森の会」「遠嶺句会」代表
 「赤とんぼ」俳句会々々員
 公益社団法人俳人協会々々員
 山形県俳人協会常任幹事
 学校法人NHK学園俳句部門講師
 句集「梨の芯」

武田詩子 先生

俳誌「森の座」同人
 俳誌「青瓢」同人
 「詩音俳句会」代表
 公益社団法人俳人協会々々員
 山形県俳人協会々々員

佐々木龍雄 先生

俳誌「森の座」同人
 公益社団法人俳人協会々々員
 俳誌「青瓢」運営委員
 山形県俳人協会々々員

応募句数

小学生の部 一、八四七句
 中学生の部 一、〇七二句
 高校生の部 四六八句
 一般の部 八三八句

第五十三回 さくらんぼの都市さがえ
 全国俳句大会

第四十四回 さくらんぼの都市さがえ
 全国小・中学生俳句大会

〒九九一〇〇二一
 山形県寒河江市中央二丁目七番十四号
 寒河江市立図書館内
 さくらんぼの都市さがえ
 全国俳句大会実行委員会事務局
 TEL (〇二三七) 八六一一六六二

